



No.97 2020.12.18

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU  
明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

Meet de 対話 Part3 (その2) を終えて

“播磨から仕掛ける「未来の教室」～「未来の教室」キャラバン in 播磨”の第2部「ICT化で子どものチャレンジの可能性はどう広がるか」の国際大学豊福先生の提案をベースに熟議を行いました。この動画の感想から熟議はスタートしました。

#### 【参観者の感想】

「本当にためになっているのかわからなくなる」

「ipadを研修センターより借りているが動画のように2週間を経過すると子どもが飽きてくる(ipadに慣れ、使うことが当たり前)」

「ゲーム的な要素を取り入れることも必要である」

「タブレットを文房具的に使うことが大切」

そこで、司会者から「タブレットが死蔵文鎮化せずに、日常的に活用できるようにするためにはどうすればいいのか」という問いを投げかけました。

#### 【参観者からのご意見】

「タブレットの管理を子どもたちにまかせ、タブレット利用のルールを作っていくことが大切ではないか」

『情報の共有化』『考えの協働化・構想化』にもタブレットは有効であったので、今後さらに、授業場面で有効活用していくことが大切」

「タブレットを活用して、個の学びを強めていくというサイクルが大切」

「YouTubeなどを活用、反転学習を行うことで、学校では教科の本質に迫る授業を行うことが可能になる」

『学びを見える化』することが大切で、その学びを子ども、保護者と共有していくことで、より深い学びを生み出していくような学びのサイクルを創り出していくことが大切」

このような意見を聞いて私が思ったことは、タブレットの1人1台端末が実現することにより、新学習指導要領の趣旨にもある「何を学んだのか、何ができるようになったのか」という個の学びの質が問われるということです。児童生徒一人一人が、自分の特徴やペースに合わせて、それぞれの学びを深めていけるような環境を創り出していくことが重要だと考えました。

そのためには、やはり、熟議が必要です。コミュニティ・スクールという仕組みをフル活用し、学校、家庭、地域がタブレットを使って、どんな資質・能力を身につけた子どもを育てていくのかを熟議し、共通理解していくことが今まさに求められているといえます。

また、連携を図っていく際に重要なのは、情報を共有し、情報格差をなくすということです。Meet や Zoom 等オンラインをフル活用し、オンライン会議を随時開催していくこと



Jamboard を使った Meet de 対話 Part3 (その2)

Meet de 対話 Part3(その2)に参加して

先日コミュニティ・スクールマイスターである兵庫教育大学の小西先生から、「生きる力」の原点である 1996 年の中教審の答申の話をお聞きする機会があり、早速 HP で第 1 次答申のパンフレットを見ました。まず答申のポイントの一つ目はこう書かれています。

“これからの教育は「ゆとり」の中で「生きる力」を育成することを大切にします”

◎これからの社会は、変化の激しい、先行き不透明な、厳しい時代と考えられます。そのような社会では、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことが必要です。

「生きる力」とは

- ・自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
- ・自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力

中央教育審議会では、これらの力を「生きる力」ととらえました。

◎「生きる力」をはぐくむためには、

家庭学校や地域社会が十分に連携し、バランスよく教育に当たることが重要です。特に、家庭や地域社会の教育を充実したものにすることが大切です。

- ・生活体験や自然体験などの実際の体験活動の機会を広げていくことが望まれます。
- ・学校で「生きる力」の育成を重視した教育を進めていくことが必要です。
- ・子供たちと社会全体に「ゆとり」をもたせることが必要です。

◎この「生きる力」をはぐくむことは、生涯学習社会において、大変重要な課題です。

四半世紀前にこの答申は出されていますが、この四半世紀なにをしてきたのかなと。この答申がでた頃は、生活科が導入され、「総合的な学習の時間」の導入に向けて動き始めている頃でした。その頃、「生活科」や「総合的な学習の時間」に向けての研究が主流で、「生活科」「総合」本質からだんだんと離れ「How to 生活科」「How to 総合」と「どうやれば生活科、総合になるの?」という流れになっていったのを覚えています。“Meet de 対話 Part3”に参加しながら、GIGA スクール構想の中でタブレット端末の導入が近づくにつれ、これまで繰り返されてきた本質を離れ、「How to ○○」の道を進んでしまうのではと・・・。

当時、読み間違った「ゆとり」の意味をもう一度考えながら 1996 年の中教審の答申を読んでみようと思っています。その中で当時見えなかったいろいろなものがつながっているのが見えてくるのではと思っています。

(文責:北本)